

# 光といのち

第105号

—春彼岸—

2017年3月10日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

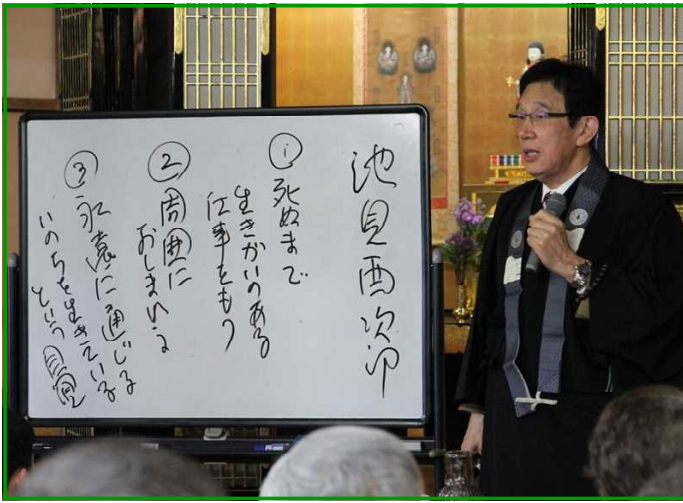
メール [info@syozenji.or.jp](mailto:info@syozenji.or.jp)

URL <http://syozenji.or.jp/>

住職 釋孝昌(井上孝昌)

## 水島見一先生聞法会

2月4日(土) 5日(日)に開催した聞法会に、房州各地から連日100人ほどの人びとが集まり、二日間とも本堂は満堂となりました。



一人残らず  
生老病死の人生を  
歩んですわ。

法語

水島見一先生

先生のお話には、日ごろ気づかない本当の自分の姿が炙り出され、聴聞者は皆一様に深くうなずいておられました。それは仏教の救いが証明された光景であります。

上の写真の「池見西次郎」は、日本の心療内科の草分けです。水島先生は氏の言葉を引用し、人が死ぬまで明るく生きていくためには「①死ぬまで生きがいのある仕事をもつ②周囲に惜しまれる③永遠に通じるいのちを生きているという自覚」が必要で、③は仏教を聴聞しなければできないことだと。

右下の写真の「あたりや」は、「すべてが与えられて在るのだ！」という受けとめで、私は「永遠に通じるいのちを生きて



いるという自覚」を表す言葉。ところが妄念妄想を生きている私たちは、そのことを自覚できない。だから如来は、苦悩という「宿題」を私たちに課すのだと。そして、仏法聴聞は、その宿題に取り組むことだと。「あうものに あわな あかん」は、如来からの宿題をいただいて生きた真宗門徒の自得の言葉です。

妄念妄想に右往左往して生きている私の盤石な立脚地、それが仏教です。

日ごろ寺に足を運ばれない方



々やご門徒以外の方々も、何人も熱心に聴聞されていました。住職として、このような聞法会をより積極的に開催する責任と使命を強く感じています。最後になりましたが、世話人や門徒の皆さんには、駐車場や受付などで協力していただきありがとうございました。また無料でという案内でしたが、御懇志をいただきました。有り難うございました。御懇志は、今後の聞法会の資金とさせていただきます。水島先生には、6月3日(土)4日(日)にまたご出講いただきます。詳細は、5月寺報でご案内します。

# 天上天下 唯我独尊

この言葉は、お釈迦さまが誕生された時に「私は世界のうちで最勝のものである」と宣言した偉人伝説として、ご存じの方も多いと思います。

「それは、私のことだ！」と受けとめた時、自分の存在を言い当てた法語（仏の言葉）として響きます。

昨年引き続き「花まつり」前の寺報です。お釈迦さまの誕生と歩みを掲載します。

本年は、出家・苦行・成道（じょうどう）・転法輪（てんぽうりん）・涅槃（ねはん）・仏教伝播（でんぱ）の範囲です。

絵本『おしゃかさま』（東願寺出版部）を引用しましたが、読みやすくするために、適宜ひらがなを漢字に改め章題を付けました。

## 出家

二十九才のある晩、太子は寝ている王さまやお姫さまや赤ちゃんに、心の中でお別れをし、白馬カンタカにまたがり、城を出ました。付いて来るのはお供一人です。

森の中に入ると冠やきれいに飾った服をお供に渡し、自分の髪の毛を刀で切りました。最後まで修行をやり遂げるといふ強い決心です。お供は泣いて一緒にいたいと訴えましたが許されません。

城に帰ったお供の話で、城の中は大騒ぎになりました。でも、太子を深く愛していらつしやる王さまは、太子が生まれた時の仙人の話を思い出し、五人の家来に「一緒に修行して太子を守るように」と命令しました。

## 苦行

太子は、いろんな仙人にいろんな修行を習いました。

何も考えない。何も思わない「行（ぎょう）」。一粒の米、一粒のゴマで一日をすごす「行」。長い間息を止めて死ぬ少し前まで我慢する「行」。体を逆さづりにしたりトゲのある木の上座る「行」。そんな苦しい「行」を毎日続けました。

体はやせ衰え今にも倒れそうになりました。「これではいけない。人間を幸せにする本当の道はこんな「行」では見つからない。」と、太子は一人でお供を出しました。

森を出た太子は、川の近くの草原で横になりました。

「おや、人が倒れている。」そばを通った村の娘スシャータは、びつ

くりして持っていた乳がゆを飲ませました。

森の中からこれを見ていた五人の家来は、「太子は修行をあきらめた。一緒にいてもしかたがない。」と、去っていきました。

## 降魔

乳がゆのおかげで元気をとりもどした太子は、川の水で体を洗い近くの丘の大きな「菩提樹（ぼだいじゅ）」の根元に座りました。

そこで目を閉じて膝の上で手を組み深く自分の心を見つめる修行に入りました。人間の心の中には、たくさんの悪魔が住んでいます。

「やい、太子。おれを知っているか。おれは、人間を心配させる悪魔だ。」「おれは、人間を困らせる悪魔だ。」「おれは、人間を欲張りにする悪魔だ。」「わたしは、人間を迷わせるのよ。」「悪魔」「悪魔」「悪魔」……「みんな悪魔の宮殿の兵隊なのだ。アツハツハツ……」

悪魔たちは姿を変え形を変え、夜といわず昼といわず攻めたてました。

目を閉じ座ったままピクリとも動かない心と体。

悪魔たちは恐ろしい武器を持って大きな牙をむき、毒蛇を口から吐き出し火や煙を吐きながら、太子の心の中に突進してきま

す。そうかと思うと「もう、やめたらどう」と、誘惑の悪魔がきれいな女の姿となつて邪魔をしようとしめます。それでも太子の心と体はまったく動きません。

悪魔たちは焦りながら最後の突撃をしました。

その時です。太子の体は、金色に光輝き大きな音がしたかと思うと、あたりは真っ暗になりました。

闇の中で悪魔の宮殿が赤々と燃え、悪魔たちの馬もゾウも車も地面に倒れ、悪魔たちの姿はどこかへ消えてしまいました。

## 成道

あれから何日たったでしょう。

太子は膝の上に組んだ両手を静かに緩めました。

そして長い眠りから覚めたように明るい気持ちでそつと目を開きました。

東の空に低く夜明けをつげる星がキラキラとまたたいていました。

「いままでのわたしではない。人間を幸せにする 本道の道を見つけたのだ。」

このときからシッダルタ太子を『お釈迦さま』（ブツダ）と、お呼びするようになりました。

人間の悩みや苦しみの元になる心の悪魔を断ち切ったお釈迦さまの姿には、誰もが思わず手を合わせたくなるような尊い光があふれていました。

その時 お釈迦さまは、三十五才。十二月八日の朝は、静かに日の出を迎えようとしていました。

## 転法輪

「わたしが見つけた本当の智慧は、わたし一人のものであつてはならない。」

お釈迦さまは、そこを立ち五人の家来が修行している「鹿野園」という所を訪ねました。

お釈迦さまの姿が近づくと五人は「修行を捨てた太子なんかには用はない」と知らないふりをしました。

でも目の前に立ったお釈迦さまを見るともうじつとしていられません。一人立ち二人立ちみんなが頭を下げてお迎えしました。

「苦しい修行をした自分たちより、勝れた智慧の光が射している。どうしたのだ。」五人は手を合わせました。

お釈迦さまは、静かに口を開きました。「欲を断ち切るには、苦しい修行ではだめです。正しくものを見ることです。」

五人は、お釈迦さまの最初のお弟子になりました。

お釈迦さまの話しを聞こうと、たくさんの人びとがお弟子になりました。

お釈迦さまのお子たちや叔母さまの子も。そしてあのいじわるのダイバダッタも。金持ちも貧しい人も物忘れの名人も乱暴な男も、お釈迦さまはみんな同じように愛さ

れ、みんなにわかるまで何回も何回も お話をつづけられました。

## 涅槃

そして八十才の時、クシナガラ川のそばのサーラの林の木の下で、多くのお弟子たちに見まもられながら静かにお亡くなりになりました。

「わたしが教えたことを、わたしと思え。わたしは何時でも何処でも みんなの心の中に生き続けるだろう。」

二月十五日のことです。月が美しくあたりを照らしていました。

## 仏教伝播

お釈迦さまの教えは、インドはもちろんヒマラヤの麓の険しい山道や砂漠を越えて、旅をする人たちによつて東へ西へ。山を越え海を越え北へ南へと広がっていきま

した。こうして日本にも、今から千三百年前に「仏教」が伝わりました。

そして、たくさんのお寺ができて尊いお坊さまが、次つぎとお釈迦さまの教えを広められました。

今わたしたちは、「南無阿弥陀仏」と、仏さまのお名前をお呼びします。

その時、みんなの心の中にお釈迦さまは、清く正しく平和のみ光を灯し続けていらっしやるのです。

(おわり)

## 春彼岸会

お彼岸中のお墓参りは、日本人が大事にしてきた風習ですが、なぜ、お墓参りをするのでしょうか？

それは大事なことだと、やっとならざるようになりまして。

日時 **3月20日(月) 春分の日**  
**10時から11時30分**

法要 正信偈など同朋唱和

法話 副住職釋泰昌(井上泰之) 持物念珠・門徒章

※護持金は、本堂の受付に  
お願いします。



墓地入口の石碑です。「俱会一处(くえいっしょ)」と彫ってあります。



法語掲示板

真宗大谷派東京教区では、一人でも多くの方々に真宗の教えに出遇っていただくことを願い、ご門徒宅の塀などをお借りして掲示板を設置し、法語等の掲示伝道を行っています。この度、鋸南町中佐久間塚原地区の世話人田村晋一氏と田村徹夫氏のお申し出により、2月28日(火)に塚原集会所前の田村徹夫氏宅の塀に掲示板が設置されました。両氏が初めに選んだ法語は、「何が私を苦しめているのか 自分が握りしめている物差しです」でした。設置費用と掲示する法語は東京教区が負担します。自宅の塀などへの設置を希望する方は、どうぞ寺までお申し出ください。

## 花まつり

お釈迦さまが誕生して七歩あるき、「天上天下唯我独尊」と説法されると、甘露や花びらが降りました。

4月2日(日)

午後**1時30分**〜**3時30分**  
どうぞお参りください。



## 花咲く日を楽しみに!



桜の苗木を60本植えました。

2月8日(水)に前列左から  
足達 崇 川名喜昭 正木道雄  
臈居政男 田中昭一 田村晋一  
高梨教夫 田中嘉一 後列左から  
鈴木正一郎 能重 薫 川名信之  
青木敏夫 重田和夫 吉本行男  
三堀 清 明石義久 田村徹夫  
明石圭司 富澤真知子の方々  
で40本の桜を、15日(水)に  
能重初雄 川名喜昭 田中昭一  
足達 崇の皆さんで20本の桜  
を植えました。

### 行事予定

- 3月20日10時〜 春彼岸会
- 4月2日13時30分〜 花まつり
- 5月2日 東京教区同朋大会
- 5月7日14時〜 同朋の会
- 5月12日 中佐久間講
- 5月15日13時〜 親鸞教室
- 5月22日〜24日 千葉組団体参拝旅行
- 6月3日4日 水島見一先生聞法会

※本年は、6月の八日講十日講・同朋の会は中止します。

- 6月9日 婦人研修会
  - 6月12日 親鸞教室
  - 6月22日 千葉組同朋総会
  - 6月25日8時30分〜奉仕作業
- ※：以外は当寺が会場です。